

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



Hospital Director Greetings

年頭のご挨拶

長崎川棚医療センター 病院長

藤岡 ひかる

Hikaru Fujioka



新年明けましておめでとうございます。

今年も、職員の皆さん、そしてご家族にとって素晴らしい年であることをお祈りいたします。昨年暮れからお正月にかけて、救急患者さんや入院中の患者さんの治療、検査、看護にお忙しかった方も多かったことと思います。ご苦労様でした。

さて、昨年やはり全世界がコロナ禍に見舞われ、出口らしきものが見え始めたのは昨年の11月になってからでした。残念ながら未だ収束には至っておりません。有効なワクチンが開発され、3回目接種の計画も進んでいます。経口治療薬も開発されつつあり、終息も近いものと期待しています。

長崎川棚医療センターでは、一昨年2月から、『発熱・風邪症状外来』を病棟および外来棟とは別に設け、診療を行っています。病棟においては、発熱や風邪症状を認める患者さんは全員、コロナ感染を否定させてもらうために、PCR検査を行い、検査結果が判明するまでは他疾患の患者さんが入院している病棟とは違う棟で診療させていただいています。

さらに、患者さん・ご家族の皆さんには、ご不便をおかけしていますが、不急の面会は禁止させていただいています。玄関では検温も実施して、院内感染が発生しないよう万全の態勢を

とらせていただいています。今年は、このようなご不便をおかけする体制を一刻も早く解除できるよう祈っています。

長崎川棚医療センターの『2022年の目標・スローガン』は、やはり『地域の皆さんに信頼される病院となろう!!』です。このことは、私が就任以来掲げているものです。

地味ですが、当たり前のように、簡単なようで、実は大変難しく地域医療を担う施設が到達すべき理想であり、最高峰です。

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします。そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします』という当院の理念のもと、“地域の皆さんに信頼される病院”となるべく、職員一丸となって頑張っていきたいと思います。

“コロナ禍”もようやく出口が見えてきています。皆さんにとって、2022年が昨年以上に素晴らしい一年であることを祈り、年頭のご挨拶といたします。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。☑

A HAPPY NEW YEAR 2022

診療科紹介(放射線科)

放射線科科长 岩野 文彦

放射線科医は患者さんの病態に合わせて検査オーダーに対する具体的な指示を出し、出来上がった画像の確認後診断をし、レポート(画像診断書)を作成します。作成されたレポートは完備された電子カルテからすぐに閲覧できます。各々の検査について、放射線科医も主治医もその立場から診断し、ダブルチェックができるのです。もちろん、看護師や技師も同様に確認できます。

各病院からのご紹介によるCT・MRI・RI・エコー検査なども年間1000件程のご依頼があります。認知症の画像診断目的で、通常の頭部MRI・MRAに加えて、VSRAD解析を追加する症例が確実に増えています。早期のアルツハイマー型認知症(AD)やレビー小体型認知症(DLB)の診断や鑑別に有用とされています。

新型コロナの影響で検査控えとなり、早期の癌が進行癌で見つかることがないように、適切な時期の受診と



検査による病変の早期発見が望めます。院外からの紹介検査はすでにコロナ以前に戻っています。院内の検査も次第に戻りつつあります。

当院放射線科が、これからも地域の高度医療検査センターとして機能し、安心安全な検査ができるように、これからも頑張っています。

部署紹介(リハビリテーション科)

副理学療法士長 峰松 俊介

リハビリテーション科は、理学療法士10名、作業療法士5名、言語聴覚士3名の計18名のスタッフで構成されており、国立病院機構の中でも比較的多くスタッフが在籍している病院です。

理学療法士は身体機能向上、作業療法士は日常生活動作および日常生活に関連する動作、言語聴覚士は摂食嚥下・言語機能向上を目的にそれぞれが専門性を発揮することで、患者さんには総合的なリハビリテーションの提供を行っています。

当院におけるリハビリテーションの主な対象患者さんは、骨折などの整形疾患、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経難病、外科術後、肺炎や心不全などの内科疾患など多岐にわたっております。



当院は、地域包括ケア病棟を有しており、医師、看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を密にすることで、病院生活から在宅生活へスムーズに移行できるよう、多職種協働で支援しております。

編集後記

教育担当部長 今里 純子

新年明けましておめでとうございます。今年寅年ですね。過去の寅年には、バブル経済の始まり、人類初の有人衛星が達成するなど【初】や【新】という漢字がつくような出来事が多くありました。2022年は寅年のなかでも特別な年で、60年に一度の「壬寅(みずのえとら)」にあたる年だそうです。「壬(み

ずのえ)」は妊につながり「はらむ・うまれる」という意味、「寅」は「延ばす・成長」という意味があり、この2つが合わさった今年は「新しく立ち上がる」「生まれたものが成長すること」といった縁起のよい年だそうです。みなさまにとっても、2022年はWithコロナを前提に、「何か新しいことが始まる年」になるかもしれませんね。